

## 産地情勢 (2022.6.13)

米国産とうもろこし

94%作付が完了した。平年の 92%にほぼ追い付いた。北西部の未作付地では大豆に変更される可能性がある。(6月7日)

米国産大豆

78%作付が完了した。平年は 79%にほぼ追い付いた。(6月7日)

ブラジル産とうもろこし

ブラジル国家食糧供給公社は 2021/22 年産の生産見通しを 115.2 百万トンに 0.7 百万トン増加した。要因はサフィ・コソンの作付面積の増加による。(6月9日)

ブラジル中部で乾季が例年より早く訪れたため、サフィ・コソンの生産量の減少が懸念される。(5月4日)

ブラジル中部が 3 月下旬から乾季入り 5 月上旬まで継続する。4-5 月はサフィ・コソンの受粉や結実に水分を要する時期であり、現在 30-40%のサフィ・コソ地域が早魃の影響を受けているが、今後広がる可能性がある。(4月8日)

今年は北部中部で多雨となる一方、南部が歴史的な干ばつに見舞われたが、3 月は北部と中部はかなり雨が少なく、南部では高温乾燥が継続する予報となっており、冬作に大きな被害を及ぼす可能性がある。(2月15日)

クロープ <sup>o</sup> カレン ダー		作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズ <sup>o</sup> ソン・ コソ (夏作)		8-9 月	11-12 月	2-5 月	22%	主に国内 飼料需要 向
サフィ・コソ (冬作)		1-3 月上 旬	4 月	6-8 月	76%	輸出の中 心 大豆収穫 後に作付

ブラジル産大豆

ブラジル国家食糧供給公社は 2021/22 年産の生産見通しを 122.4 百万トンに 1.4 百万トン増加した。要因は作付面積の増加による。(5月8日)

南部の広範囲で乾燥が続いている。アグルーラル社は 2021/22 年産の生産見通しを 122.8 百万トンに引き下げた。アグリソース社は 119.5 百万トンと予想している。

今後まだ数百万トンの下方修正があり得る。(3月8日)

今年は北部中部で多雨となる一方、南部が歴史的な干ばつに見舞われ壊滅的な被害を与え

たが、3月は北部と中部はかなり雨が少なく、南部では高温乾燥が継続する予報となっている。(2月15日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクroppカレンダー	9月-12月初め	1月	1月-4月

アルゼンチン産とうもろこし

収穫は19% (平年25%)まで進捗した。(4月20日)

先週は南部で連続して早霜の被害が起きたが、被害の程度は1~2週間経過しなければ判明しない。

ブエノスアイレス穀物取引所は、2021/22産の生産見通しを49百万トン、ロザリオ穀物取引所は47.5百万トンと予想している。

(4月5日)

夏作は受粉期の天候がラニーニャ現象で高温乾燥になる可能性があるので多くの農家は夏作より冬作の作付けを増やす意向。冬作の割合は55~60%。(12月21日)

肥料価格が高騰しており、投入量が減少すれば単収も下がる可能性がある。(11月16日)

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は2段階に分かれる。	9-11月始め	12-1月	3-4月
	12-1月	3-4月	6-7月

アルゼンチン産大豆

46%収穫 (平年54%) 3月以降複数回の早霜被害が発生し、単収減や収穫面積の減少が懸念される。(5月4日)

ブエノスアイレス穀物取引所は、2021/22産の生産見通しを42百万トンで据え置いているが南部の霜害で今後の下方修正を示唆している。ロザリオ穀物取引所は40.5百万トンで据え置いている。(4月5日)

アルゼンチンの大豆には33%の輸出関税がかかるため、作付面積は過去15年で最低となる見通し。(11月1日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクroppカレンダー	10月-1月中旬	2月	3-6月

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

米国農務省生産量予測 (6月10日)

とうもろこし

(百万トン)

	2020/21	2021/22	2022/23

米国 (9-8月)	358.5	383.9	367.3
ブラジル (3-2月)	87.0	116.0	126.0
アルゼンチン (〃)	52.0	53.0	55.0

米国は 2021/22 年度の輸出需要が減少し、期末在庫が 45 百万ブッシェル増加した。2022/23 年度の生産量は、14,460 百万ブッシェルと変化なし。単収は 21/22 と同じ史上最高の 177bu/acre、で据え置き、期末在庫率は 9.6%に増加。

大豆

(百万トン)

	2020/21	2021/22	2022/23
米国 (9-8月)	114.8	120.7	126.3
ブラジル (2-1月)	139.5	126.0	149.0
アルゼンチン (4-3月)	46.2	43.4	51.0

米国は 2021/22 年度は輸出需要の増加により期末在庫率が 4.6%に減少した。2022/23 年度の生産量は、作付面積、収穫面積の増加から前年比 5%増の 4,640 百万ブッシェルと変化なし。需要も、搾油が前年より 40 百万ブッシェル増の 2,255 百万ブッシェル、輸出が前年より 60 百万ブッシェル増の 2,200 百万ブッシェルと変化なし。

単収は 51.5bu/acre、生産量は史上最高の 46.4 億 bu。

期末在庫率は 6.15%に悪化。

\*北半球の穀物年度は 21/22 の場合、2021 年の月から始まるが南米は 2022 年の月から始まる。(USDA)